

東京朝刊 2025/05/19(月)

毎 日 新 聞

P. 6 毎

世界の 見方

李逸洋
りいつよう

台北駐日経済文化代表処代表

WHO総会 台湾参加に支持を

台湾の国家発展委員会の予測によると、台湾では65歳以上の高齢者人口が今年20%を超え、いよいよ超高齢化社会の始まりを迎える。台湾も日本と同じく、人類史上これまでに経験したことのない少子高齢化の状態となる。台湾の良質な医療ケアシステムは、世界から高く評価され、友好国に支援できるノウハウも有している。1995年に創設された台湾の「全民健康保険制度」は、この30年間、常に国民の健康を支え、世界保健機関（WHO）が提唱する「すべての人に健康を」(Health for All)の目標を達成した。しかし、

今、少子高齢化の波が押し寄せ、

優良な制度設計も厳しい問題に直面している。

こうした課題を解決するため、台湾はスマート医療の発展に力を入れている。台湾はハイテクの優位性があり、AI（人工知能）、デジタル技術などの情報通信技術をスマート医療分野でも積極的に活用している。例を挙げると、近年台湾は「バーチャル健康保険カード」の普及を進め、旅行や出張などの際に健康保険カードを持つてくるのを忘れても、スマートフォンでQRコードを読み取ればどこでも健康保険システムに接続でき、スムーズに受診できる。

台湾は健康保険の運営の豊かな

るのは、台湾自身しかないとに疑問の余地はない。

今年2月の日米首脳共同声明、日米韓外相共同声明、3月のG7（主要7カ国）外相共同声明などの文書には、いずれも「台湾の国際機関への有意義な参加を支持する」との記述があった。また日本は2月、WHO執行理事会で、世界の保健課題に台湾が地理的空白となってはならないと呼びかけた。日本の台湾への支持に感謝の意を表したい。

今後もWHOの総会をはじめ「WHOパンデミック条約」といった関連活動などへの台湾の参加について、日本社会から支持と協力が得られることを願っている。台湾は世界と手を携えて協力し、知恵を結集し、人類の未来の健康な社会への進歩を共に追求していくことを望んでいる。（寄稿）

(c)毎日新聞社 無断転載、複製を禁止します。